



# コミュニティだより



発行 登米市吉田公民館  
(指定管理者 吉田コミュニティ運営協議会)

TEL: 0220-55-2124  
FAX: 0220-55-4528

吉田コミュニティ運営協議会



## 平筒沼ふれあい公園の指定管理業務からの撤退について

6月28日に開催した今年度第2回理事会において、平成28年度から2期8年間にわたって登米市から受託してきた平筒沼ふれあい公園の指定管理業務について、令和6年度から始まる次回の指定管理業務の募集には応募せず辞退することを決定し、その旨を登米市に伝達いたしました。

他公民館に比して圧倒的に多い業務量の中、地域の皆さんの協力を得て、パート職員をはじめ職員一丸となって何とか指定管理者の責務を果たしてきましたが、来年度からの5年の間に増加すると見込まれる地域づくり事業や公民館事業の業務量を考慮するとコミュニティ運営協議会の本来業務である公民館の運営、地域課題解決に向けたコミュニティ事業に人的資源を集中させるべきとの結論に至りました。

来年度以降、平筒沼ふれあい公園の指定管理者ではなくなりますが、おらほの宝「平筒沼」の保全活動については継続してまいりますので、地域の皆さんの引き続きのご協力をお願いいたします。

## 吉田地区地域づくり計画

登米市では各コミュニティで地域の特性を活かしながら地域課題の解決を目的とした、地域づくり計画を5年ごとに計画しています。今年度は来年度からの5か年計画を策定する年になっており、吉田地区地域づくり計画策定員会を立ち上げました。6月30日に開催した第1回策定委員会では、地域づくり計画の趣旨説明、吉田地区の住民を対象としたアンケート内容の確認、地域内の現状を把握するためのワークショップを行いました。策定委員の皆さんから様々な意見が出て、活発な話し合いが行われました。今回の区長配布で吉田地区住民アンケートを各家庭に送付しました。計画を策定する上で必要不可欠なアンケートですので、是非ともご協力をお願いします。

## 歴史講座「温故知新」第1回学習会 開催（6月27日）



受講生20名が集まり第1回学習会を開催しました。今から1,200年以上も前に当時の律令政府によって設けられた古代城柵遺跡と考えられる「吉田遺跡」について学び始めて2年余りが経ちましたので、今回は復習勉強会として改めて大切な部分を学びなおしました。北上川の流れや地形の変化に始まり、遠山村の蝦夷、桃生城の焼き討ち、蝦夷との38年戦争、登米（とよま）の地名の由来、善王寺の末田窯跡出土の須恵器のこと、そして文献に残る蝦夷対策の21か所の城柵の中で場所が特定されていない2か所の内の一つである中山柵の有力な候補地が吉田遺跡であること等々。受講生の皆さんは真剣にペンをとっていました。また、7月6日には、今年の新規入会者向けに吉田地区遺跡マップを教科書に学習会を開催しました。新たな発見があったと受講生は目を輝かせていました。

## ホームメイドクッキング「開級式並びに第1回学習会」（6月29日）



待ちに待った「ホームメイドクッキング」が開催。今年度は年間を通して「骨々（コツコツ）貯金をしよう!!」をテーマに、身近にある旬の食材を使っの料理教室です。

コロナウイルス感染症や食中毒予防に十二分に気を配り、学級生の皆さんにおもてなしの心を持って、調理していきます。

今年度初めて参加したAさん「皆さんの協力を得ながら、楽しく調理出来き、美味しく頂きました。」と感想。次回のメニューが心待ちです。

裏面もご覧ください ➡

### 吉田先人大学「第2回学習会」開催（7月13日）



26名の学級生が参加し、2部構成で講演会を開催。第1部では、明治安田生命保険相互会社 仙台支社 部長 櫛引伸昭氏を講師に迎え、「MY ライフ＆エンディングを考えよう」ということで、エンディングノートの書き方を教えていただきました。第2部では、大塚製薬株式会社 仙台支店 仙台営業所 山田拓末氏を講師に迎え、「上手な水分補給について」ご講演いただきました。

どちらの講話も参加された皆さん熱心に聞いていました。「今後役に立つ話が聞けて良かった。早速、エンディングノートを書いてみます。」「熱中症に気を付けて、上手に水分補給をしていきたい。」と満足して帰られたようです。

### 家庭教育学級「じゃんぷ」カレーパーティー（7月14日）



今回は園児16名と先生方と一緒にカレーパーティーを開催。自分達が育てたじゃがいもを年少の園児が洗って、玉ねぎとニンジンの皮むき、年長さんが包丁を上手に使うってカレー用に切り、公民館職員が美味しいカレーに仕上げました。

持ってきたご飯をお皿に移して、カレーをかけたら皆で「頂きます」のご挨拶。「美味しかった」の声が飛び交う中で、お代わり3杯の園児もいて、大満足のカレーパーティーでした。

### 吉田女性サークル「第2回学習会」開催（7月18日）



今回は2部構成で学習会を開催。第1部では、大塚製薬株式会社 仙台支店 仙台営業所 山田拓末氏を講師に迎え、フレイル（老い衰え、社会とのつながりが減少した状態）は、適切な予防改善をして行くことで、健康維持が出来ることや、熱中症予防について学びました。

第2部では、加藤京子氏におはぎの作り方を教えていただき、実践。最後に皆で美味しく頂きました。

### 吉田陶芸教室「開級式並びに第1回学習会」開催（7月20日）



吉田地区で大人気の吉田陶芸教室が今年度もスタート！！10名の学級生が参加。東和焼瑞樹窯の笠政彦氏にご指導いただきました。

赤土と白土があり、好きな方を選んで作業開始。マグカップやお皿、花瓶など皆さん思い思いの作品を、先生の手を借りながら作っていました。「皆さんの作品を見るのも楽しみです。」と焼き上がりを楽しみにしているようです。

### 館長の戯言（ざれごと）No. 21 「ずんだ」 参考文献：とうほく方言の泉（中）

8月ともなると畑の枝豆がたわわに実り、「ずんだ」の季節となりました。さて、「ずんだ」の謂れとはいかがなものか調べてみました。

江戸時代末に書かれた仙台方言集「浜萩」という本に「ぢんだあい＝青大豆のあえもの」とあるそうで、当時は「ずんだ」ではなく「ぢんだ、じんだ」と発音されていたようです。

「じんだ」とは、広辞苑には漢字で「糲糲／糲汰」と書き、意味は「①五斗味噌と同じ。②省略。③枝豆を茹でて潰したもの。塩や砂糖で調味し、餡や和え衣として使う。」とありました。①の五斗味噌とは「大豆二斗、糠二斗、塩一斗を搗き合わせてつくるからいう。ぬかみそ。」とあり、鎌倉時代から用いられた味噌の一種とのことでした。

もともとは味噌の意味で使われていた「じんだ」が、東北地方に伝わって江戸時代に大豆を使うという共通項から意味変化して青大豆（枝豆）をすり潰したものも「じんだ」と言うようになったと考えられます。宮城県内ではズーズー弁の特徴から「じんだ」が「ずんだ」に変化しましたが、今でも「じんだ」と言う地域が東北各地にあるそうです。決して「豆打（ずだ）」ではありません。